

勝承夫 かつりょう 詩人。明治二十五年一月、千九百東京生れ、昭和五十六年八月（二日没）（一九〇一—八二）。筆名宵鳥凌吉。大正十一年東洋大學卒。在學中、止齋洋生室誌『新進詩人』同人、十年井上康文等と『新詩人』を、十一年岡本潤等と『紀元』を發刊。報知新聞社勤務、のち日本ビクター株式会社専屬作詞家など。

著書『文章の技術』（昭和十六年十一月、千日教材社）、『新日本國の詩』（合著・安部富之介、村上成實編、昭和十八年四月、千五百大阪・大和出版社）、『國民詩選・昭和十八年版』（合著・岡本潤編、昭和十八年五月、千五百大阪・興亞書局）、『制稿のれう—青年朗唱詩集』（合著・詩人同志會編、昭和十八年八月十五日旺文社）、『日本詩集・第一輯』（合著・野長瀬止夫編、昭和十八年九月五日淡海堂出版株式會社）、『若草の夢』（昭和二十二年二月十五日草涼書房）、「詩と隨筆」叢書」（、詞華集、百人體頌歌」（合著・思地孝四郎編、昭和二十一年六月、千五百富田本社）、『草笛集—現代抒情詩と隨筆選集』（笹澤 美湖 共編、昭和二十一年六月、千五百草涼書房）、「詩と隨筆叢書」、藤竹次郎 共編、昭和二十一年八月、千五百多摩書房）等。

